

森林官の一日

東京神奈川森林管理署 箱根森林事務所

森林官 柴崎 一道



「箱根の山は天下の険」

ご存じ神奈川県箱根町は、首都圏の奥座敷とも言われ、富士箱根伊豆国立公園の中央に位置し、四季を通じて楽しむことができる箱根の持つ素晴らしさを求めて年間1,900万人の人が訪れる日本を代表する観光地です。

また毎年正月には数々の感動を与えてくれる箱根駅伝の熱戦が繰り広げられており、ご存じの方も多いためと思います。

実はこの箱根にも林野庁が管理す



駒ヶ岳山頂からの360度の大パノラマ



芦ノ湖風景林からの眺望

る国有林があるのです。

当事務所が管轄している国有林は芦ノ湖周辺に約1,400ヘクタールあり、都市近郊林として各種公益的機能の高度発揮が強く求められており、箱根という観光地の背景林及び近郊大都市の水源地等として大変重要な役割を有しています。

近年、国有林のフィールドを体験林業やボランティア活動の場として提供していますが、箱根の国有林においても学校の森林教室やNPO団体との協定による森林整備を行っておりますので、今回はボランティア

活動について紹介したいと思います。

この取り組みは「NPO法人 地球緑化センター」との協定により、平成8年から実施されており、定例プログラムとして地球緑化センターが派遣する「山と緑の協力隊」が活動しています。活動内容としては芦ノ湖風景林内における台風被害跡地の復旧を中心に、地拵・広葉樹の植付・下草刈りや保育間伐・歩道整備等を行っています。

山の仕事（特に暑い夏の下草刈り等）は大変な重労働です。その下草刈り活動に私も一緒に参加した時のことです。

その日は暑い夏の日で参加者達は強い日差しの中、汗をダラダラと流しながら大鎌で草を刈っていました。これは本当に辛い作業でしたが、何故か参加者達の作業終了後の表情は喜びに満ち溢れたものだったのがとても印象的でした。

何故だか聞いてみると「自然の中で気持ち良く汗を流しながら作業し、箱根の森林作りに貢献できているのだからこんなに嬉しい事はない!」、しかも富士山と芦ノ湖の絶景を眺めながら作業できるのだから最高じゃないか!という返事が返ってきました。

これは技術・安全面を指導するために参加していた私にとって、いつの間にか山仕事は楽しみを見つけた



自然の大切さ、素晴らしさを伝える森林教室

がらやるという初心を忘れていたのに気付かされた出来事でした。

逆に一般の方々から色々教えらるる事も多いのです。その他、「自分の作業した森林が今後どうなっていくのかとても気になるが、箱根は都市部から近いから観光で来る度に見に行けるので今後の楽しみもあるよ。」という感想も寄せられ、一般の方々も国有林に強い関心を持ってくれた事に本当に嬉しく思いました。

森林からの勉強に終わりはありませんが後世へ立派な森林を残すため、多くの人達に自然の素晴らしさを伝えていくためにも、技術の習得に日々精進していきたいと思えます。

駅伝のごとく、緑の襷を次の世代へ繋いでいかなければならないのだから。